セキュリティの確保②（情報漏洩対策）

アカウント情報の管理

大学の中では、演習室のパソコンはすべて皆さんのアカウント（ユーザー IDとそれに対するパスワード）がないと使えないようになっています。しかし、もしそのアカウント情報をあなたが誰かに教えてしまったり、何かのメモに書きつけていたものを誰かに見られて憶えられてしまったりしたらどうでしょう？

学内LANの中で使えるあなたの仮想ドライブ（Hドライブ）に保存してあった大切なファイルやレポートがなくなっていたり、改ざんされていたり記録された個人情報が漏洩する被害に遭うかもしれません。また、同じパスワードを使っていたら、BlackboardやWebメールなどから、あなたになりすまして勝手なメールや悪意のあるレポートなどが友人や担当教員、あるいは不特定多数にばらまかれてしまうかもしれません。アカウントの管理は、皆さん自身の情報を守るために、まず第一に考えなければならないことです。

USBフラッシュメモリの紛失

最近はデータのやり取り、たとえば自分のパソコンと演習室のパソコンとの間のデータのやり取りや友人とのデータの移動･交換にUSBフラッシュメモリを使うことが多いと思います。USBフラッシュメモリは、最近は安価で大容量でUSBポートに挿すだけという簡単さから、たいへん普及しています。

しかし、小さいだけにうっかり紛失したり、利用したパソコンに挿したまま忘れてしまうことも多く、実際、パソコン演習室での忘れ物の最も多いのはこのUSBフラッシュメモリの挿し忘れです。忘れ物や落とし物をしないことがまず第一に大切ですが、もしうっかりUSBフラッシュメモリを忘れてしまった時のことを考えてみましょう。

USBフラッシュメモリを、悪意ある誰かに拾われた場合は、そこにあった大切なファイルの内容や個人情報がその何者かに知られることになってしまいます。せっかく提出するはずだったレポートや大切な実験データなども失われてしまいます。

Winnyなどファイル共有ソフト

もう一つ情報漏洩の大きな原因となるのは、自分のパソコンにWinnyのようなファイル共有ソフトをインストールしている場合です。ファイル共有ソフトとは、インターネットを通じて不特定多数のパソコンがファイルの供給者（サーバー）かつ受け取り者（クライアント）となってファイルを共有するソフトです。

本来は多数のユーザーでファイルを効率的に利用しようというもので、実際そのような合法的な目的に利用する場合もあります。しかし現実には本来、著作権があるはずのDVDの映画作品やCDの音楽作品をファイルとして違法に共有する目的で利用されていることがほとんどで、このこと自体が著作権保護の観点からしても問題です。

Winnyのようなファイル共有ソフトには、下記のような特徴があります。

(1) 自分のパソコンにWinnyを導入すると、自分が欲しいファイルデータを不特定多数のサーバーから得られると同時に、自分自身もサーバーとして自分のファイルデータを不特定多数に公開してしまうこと

(2) きわめて高い匿名性を持っているので、そうして得たファイルデータがどのサーバーから得られたのか、また自分のパソコンにあったファイルデータがどこにダウンロードされていったのかを知ることができない上に、一旦サーバーとして稼働したら止めることができずに常時データが流し出されていく状態になること

本来は、こうした共有できるファイルは自分のパソコンの中の特定の領域だけと制限することができました。しかし、Winnyをターゲットにした Antinny というウィルスがWinnyを通じて蔓延することになり、この Antinny に感染したパソコンではすべての領域のデータがインターネット上に流出してしまうことになってしまいます。ここ数年多くの個人情報の漏洩事件が発生しましたが、その多くがこのWinny+Antinnyによってパソコンが情報の垂れ流し状態になってしまったために起こったことです。

ここではファイル共有ソフトとしてWinnyを例にしましたが、この他にも、WinMX、Share、PerfectDark、LimeWire など国内、海外で次々と新しい共有ソフトが開発されています。すべてが違法なものとは言えないまでも、情報漏洩の原因となる可能性があり、また利用目的に著作権侵害が含まれていることで本来、導入することは避けるべきソフトと言えるでしょう。

情報を守る方法

皆さんは情報漏洩対策として、次のようなことを心がける必要があります。

■USBフラッシュメモリ

(1) USBフラッシュメモリにパスワードをかける。

最近のUSBフラッシュメモリにはセキュリティソフトがついてくるものが多いので、特定のフォルダや領域にパスワードを入力しないと開けないような仕組みを作ることができます。この特別なフォルダや領域は、このパスワードを知らない限り、開くことも中に何が入っているのかも知ることができない上に、別な手段を使って中の一部を解析することもできません。使い方は多少面倒になりますが、このフォルダや領域に入れたファイルは、万が一USBフラッシュメモリを紛失して悪意ある他者の手にわたっても、中のデータが漏洩することはありません。また、このような機能をソフトウェアではなくハードウェアで高速に実現したUSBフラッシュメモリもありますが、価格はかなり高価になります。

なお、この種のセキュリティには、特定の条件を満たしたコンピュータでないと利用できない場合が稀にあります。レポート提出の間際になって、そうした事態にならないよう事前に自分のUSBメモリのセキュリティ機能が大学の演習室のパソコンで利用できるかチェックしておくとよいでしょう。

(2) 大切なデータは常に自分のパソコンや外付けハードディスクなどにバックアップをとる。

USBフラッシュメモリを紛失した時に失われたデータは戻ってきません。例えばMyPCネットワーク上の個人用Hドライブに必ずバックアップを取っておくと良いでしょう。USBフラッシュメモリのように紛失の可能性のある媒体にだけ、皆さんの作成中のレポートや実験データのように、再生できない大切なファイルを記録しておくことはやめましょう。

(3) Winnyなどのファイル共有ソフトは、パソコンにインストールしない。

大学生活の中で、複数の誰かとファイル共有をしなければならないような用途はまずありません。そうした用途があるのであれば、大学や研究室がもっと安全な特別なファイル共有の手段を提供してくれるはずなので、インストールすることは避けるべきです。